

れたが、付着重量と接合強度との間に相関関係はみとめられず、むしろ繊維の集合状態や付着状態に関係することがうかがえた。

C-35 ベルクロファスナーの接合強度について (第2報)

帝塚山学院短大 南日 朋子
○木下 育子

従来のスライドファスナーの機構と全く異なり、重ね合わせて押えるだけでしっかり締り、はがせば簡単に開くというファスナーが、ベルクロファスナーとか、マジックテープの商品名で市販されている。

消費者の立場から、このファスナーの接合強度に影響を及ぼす要因として、1)ファスナーの色すなわち染色法の違い、2)接合面の重ね分量、3)開閉回数による疲労度、4)基布への止めつけ方、5)洗濯時における他繊維の付着、6)アイロン仕上げによる熱の影響などが考えられる。これらの要因のうち、1)・3)・4)など被服工作途上における要因をとりあげ、昨年の関西支部会において報告した。今回は、他繊維の付着からみた接合強度の影響について検討したのでその結果を報告する。

繊維を付着させる方法として、実験的に乾燥状態のまま繊維を摩擦して付着させる方法と、実際に洗濯することにより、洗濯物から脱落する繊維を付着させる方法とが考えられる。

前者の場合、繊維付着後、ファスナーの素材であるナイロンを溶融し、残留繊維重量から検討した結果、付着重量と接合強度との間に相関関係がみられた。後者の場合、繊維付着前後の絶乾重量から付着重量を算出した結果、洗濯回数を重ねるに従って繊維重量の増加が認めら